

仙台陣屋かわら版

第七十五号

(平成二十三年五月号)

HP: <http://www.town.shiraoi.hokkaido.jp/ka/jinya/> Mail: jinya@town.shiraoi.jp

〒059-0911 白老町陣屋町六八一 TEL&FAX 0144-851266 仙台藩白老元陣屋資料館発行

白老町の新たな伝統文化継承者の認定式が行なわれました

去る三月三十日(水)、白老「コミュニティセンター」にて、白老町指定無形民俗文化財「白老町伝統文化継承者」の認定式を執り行ない、四名が新たな継承者として加わりました。

認定は「永年にわたり伝統文化の習熟と継承に勤しんできた者」、「今日の、文化伝承の形態の基礎を作った者」などの選考基準に基づき、後継者育成などに寄与した人物の、優れた知識や技術を、次世代の模範とすることを目的としています。

認定者の一人、伊藤陽子さんは、「食べるためにただ一生懸命働いてきただけ。文化とか芸術など考えたこともない」と謙虚に喜びを語られました。

それでは今回、認定者となられた方々を、簡潔ながらご紹介します。



〈継承者の皆さん。左から伊藤ご夫妻、塚原さん、大島さん〉

○塚原信雄さん(生活く鍛造・農鍛冶技術者)

網走管内滝上で鉄工業を営まれていた塚原さんは、昭和四四年に白老町へ移住しました。白老でも塚原鉄工所を構え、農鍛冶として林業・農具・漁具の製作や修繕などに携わってきました。町内では唯一の、鍛造の技術保持者です。

鍛造とは原料の鋼を熱し、叩いて鍛える行程のことで、日本刀を鍛える光景などではお馴染みかも知れません。現在でも、鍛造のための作業場である「火床(ほど)」を管理されています。

○大島信也さん(工芸く木彫)

美唄の炭鉱に勤めていた大島さんは、昭和三六年に白老町の住民となりました。その後、木彫グマ作成に着手し、独学で腕を磨かれています。平成十五年には、台風で倒れた史跡の赤松から力作【コタンコロクル】を彫り上げ白老町へ寄贈してくださいました。

また木彫グマが隆盛の頃から本州の各地へ一人足を運び、伝統工芸の盛んな町を訪ねては、白老町の木彫産業が生き延びていくための方策を探っていました。

○伊藤信吉さん・陽子さん(工芸く木彫)

昭和四十一年に移住された伊藤ご夫妻は、渡島管内八雲町の出身です。ご夫婦揃っての伝承者認定は、町内では初めてです。

とつこのも、伊藤さんが制作されてきた木彫グマは、夫婦共同の作品なのです。信吉さんは大量需要に因應するため導入された機械を用い、木彫グマの雛形作成を担当されていました。また新たなデザインを考案することで、去りかけた木彫グマブームの再興にも貢献されています。

陽子さんは、荒削りのクマの毛彫りを担当されていました。「旦那がクマ彫りになったら、毛彫りを覚えておかなければ」と誘いを受けたのが契機となりました。現在でもご自宅の脇に作業場を構え、同業者から委託される形で毛彫りを続けていらっしやいます。

「武者人形」展 開催中!

GWの恒例となりました「武者人形」展。今年も資料館ロビーにて四月十六日(土)より開催となりました。外では屋根より高く鯉のぼりが空を泳ぎ、中では鎧兜をまとう凛々しい人形たちがお出迎へと、資料館も一転して春を迎える装いが整いました。



また五月五日(木)祝十時から、「子どもの日企画」を催します。親子で楽しめる鎧兜の試着体験の他、簡単に美味しい手焼せんべい作り体験や、紙かぶと作り、絵本の読み聞かせなど、楽しい企画をご用意してお待ちしております。ご家族揃って遊びに来てください。

ところで、端午の節句は中国伝来ですが、鎧兜や鯉のぼりなどは江戸時代から飾られるようになったと言われています。現在は品物も種類に富み、有名武将の鎧兜・青や赤のメタリックカラーの兜などが販売されていますが、一方で出番の減ってしまった面々もいます。今回の資料の中では文武両道の象徴である「神武天皇」・「厄除けや学業成就祈願の対象であった「鐘馗(しょうき)」などが、現在では珍しい人形となっています。他にも「金太郎」・「桃太郎」・「牛若丸」・「弁慶」などが挙げられます。ただ、どの人形も子どもたちの健やかな成長を願って奉られてきたものです。時代の変化に負けることなく、未来にも残って欲しいものですね。

白老地域文化大学、四年間を修了

三月二六日(土)、第四七回白老地域文化大学講座を行いました。「あなたに伝えたい、わたしと白老」と題した講座には十九名の学生が参加し、三月十九日(土)開幕の歴史と文化のまちPR展示事業「あなたと白老、わたしと白老」展における、それぞれの出展資料に関するご講演をいただきました。個々人の記録を、町史と絡めること

を試みた企画でしたが、資料に対する強い思いが感じられる講座となりました。

とはいえ、まだまだ必要な資料が不足している状態であり、町内の皆様から更なる郷土資料をご提示いただけることを願っている次第です。展示をご覧になって、「あれ、ここの年代の資料なら持っているわ」など、思い当たるようなことがありましたら、是非とも資料館職員にお声かけください。

なお、講座終了後には平成二十二年度修了式を実施。九名の学生に中村齋学長より修了証書が手渡されました。また一名が皆勤賞を受賞され、さらに六名が四年間の修了に伴い、「博物館大学学士号」を授与されました。

「挨拶 撈 「離任にあたって」

平成五年一月、釧路管内厚岸町から、知り合いのいない白老町に降り立ち十八年、元陣屋資料館学芸員として、町民のみなさまの温かなご支援・ご協力を賜りながら、様々なことを勉強させていただきました。資料館も郷土博物館的要素を内包し、様々な事象にも対応できる機能を持つことができるようになったものと自負しております。

しかしながら、町の歴史が続く限り、われわれ



〈資料について語る学生〉

博物館人の仕事も続いていきます。みなさまには、後任の若い学芸員を今まで同様に励ましていただき、お育ていただいたきたいと切にお願い申し上げます。私は今春より、企画課アイ又施策推進室に席を移し、「民族共生の象徴となる空間」の整備に携わります。今後とも、持ち前の明るさをもって精一杯邁進していくことをお約束し、離任にあたってのご挨拶とさせていただきます。

十八年間、誠にありがとうございました。

武 永 真



「挨拶 撈 「新たなGメンバーとともに」

資料館長として、新たに前総務課長の田中春光が着任しました。また社会教育Gの人員も様変わりしましたが、資料館としては、これまで以上に若い世代の持ち味を発揮していく考えです。みなさまには変わらぬご愛顧をお願い申しあげ、またご指導・ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

仙台藩白老元陣屋資料館 学芸員 平野敦史

☆資料館は、連休中も休まず営業いたします。

なお、町民の方は八日(日)まで入館料無料です。

「仙台陣屋かわら版 第七十五号(平成二十三年五月号)」

発行日: 平成二十三年四月二十二日(金)

発行所: 仙台藩白老元陣屋資料館 担当者: 平野・干場